

令和5年度 上北沢地区地域包括ケア推進プロジェクト

地区内交流・意見交換会

「まちがつながる、ひとをつなぐ 支え合う地区づくりのために」

実施報告書

令和6年3月

上北沢地区社会福祉協議会

上北沢あんしんすこやかセンター

上北沢まちづくりセンター

上北沢児童館

【 目 次 】

1. 地区内交流意見交換会 概要・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1
2. 開会挨拶（要旨）・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2
3. 第1部 四者と地区活動団体による発表（要旨）・・・・ P 2
4. 第2部 交流・意見交換
 進め方・・・・・・・・・・・・・・・・ P 5
 1 グループ・・・・・・・・・・・・・・・・ P 6
 2 グループ・・・・・・・・・・・・・・・・ P 8
 3 グループ・・・・・・・・・・・・・・・・ P 10
 4 グループ・・・・・・・・・・・・・・・・ P 12
 5 グループ・・・・・・・・・・・・・・・・ P 14
 6 グループ・・・・・・・・・・・・・・・・ P 16
5. 講評（要旨）・・・・・・・・・・・・・・・・ P 18
6. 閉会挨拶（要旨）・・・・・・・・・・・・・・・・ P 18

1. 概要

- 日 時 令和6年2月21日（水）午後6時～8時10分
- 会 場 上北沢まちづくりセンター 活動フロアー
- 参加者 計34名（案内発送数100名）
- 意見交換会
司 会 上北沢まちづくりセンター 所長 内田 政夫
上北沢児童館 館長 服部 琴美

開会挨拶 上北沢地区社会福祉協議会 会長 新井 貞次
上北沢地区町会・自治会連合会 会長

第1部 四者と地区活動団体による発表

- (1) 上北沢地区四者連携 令和5年度の取り組みについて
(社会福祉協議会、あんしんすこやかセンター、まちづくりセンター、児童館)
- (2) 社会福祉法人福音寮 事業の成り立ち
飯田 政人 様 (福音寮)
- (3) 世田谷ボランティア協会から
高田 純子 様 (鳥山ボランティアビューロー)、久我 慶子 様 (世田谷ボランティア協会)
- (4) つなぐ・つながる「まちのお茶の間」
～今、できることをゆっくり紡いだ16年
小池 良実 様 (岡さんのいえ TOMO)

休 憩

第2部 交流・意見交換タイム

- (1) テーマごとのブースに分かれて、意見交換タイム
- (2) 講評 世田谷区鳥山総合支所長 和田 康子
- (3) 閉会挨拶 上北沢あんしんすこやかセンター 所長 笠原 康右

令和5年度 上北沢地区地域包括ケア推進プロジェクト

地区内交流・意見交換会

「まちがつながる、ひとをつなぐ 支え合う地区づくりのために」

要旨

開会挨拶 上北沢地区社会福祉協議会 会長 新井 貞次
上北沢地区町会・自治会連合会 会長

日頃、皆様のご協力のもとに地域の活動をお手伝いしながら進めています。

これからも皆様のご協力のもと、皆様の意見を聞きながら、住みやすいまちにしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

第1部 四者と地区活動団体による発表

(1) 上北沢地区四者連携 令和5年度の取り組みについて

(社会福祉協議会、あんしんすこやかセンター、まちづくりセンター、児童館)

烏山地域経営方針のテーマ「まちがつながる、ひとをつなぐ」のもと、地域共生社会の実現に向けて、烏山総合支所と各地区が一丸となり、「つなぐ烏山」の取り組みを進めている。上北沢地区では、令和4年度より上北沢地区四者の各事業において、松沢病院との連携を進めている。

<まちづくりセンターより>

上北沢地区のイベントである自由広場の開催について報告した。地区活動団体・施設等の関係者のほか、ステージイベントには、地区の小学校や児童館の子どもたちが参加した。四者連携では、まちづくりセンターが運営全般を担当し、あんしんすこやかセンター、社会福祉協議会、児童館は、各ブースを出展した。松沢病院も、出展の他、活動PRタイムに参加した。

<上北沢地区社会福祉協議会>

上北沢縁側プロジェクトにより、「障害の有無に関わらない居場所づくり」を展開している。令和2年度以降はコロナウイルスの影響により休止していたが、昨年度からは松沢病院とも連携し、敷地内にある喫茶室での茶話会や、体育館でボッチャ交流会を開催した。今年度は対象者を限定せず、誰でも集える居場所づくりを再開している。

また地域住民と松沢病院のデイケア通所者の交流を目的として、社協の特技ボランティアを派遣しており、活動内容は、落語や手品、ボッチャや太極拳等、多岐にわたる。このボランティア派遣を通して、松沢病院のデイケア利用者が地域のふれあい・いきいきサロンに参加するなど、地域活動にも結び付いている。

<児童館>

上北沢児童館の親子サークルのメンバーが、松沢病院の敷地内を散歩で使用していることを報告した。

<あんしんすこやかセンター>

デジタル関連講座「スマホを使って介護予防!!二次元コードの読み取り方を学ぼう」を実施し、区民と地域の訪問看護ステーションのリハビリ専門職の総勢36名が参加した。また、センチュリアン外来の講演会について報告した。参加した方からは、「明るいイメージでびっくりした」「この外来にかかり認知症予防に取り組みたい」と好評を得た。

(2)社会福祉法人福音寮 事業の成り立ち

飯田 政人 様(福音寮)

地域とのつながりを大切にしていきたいと考えており、福音寮での経験を少しでも地域に役立てたいとの思いのもと、事業展開をしている。

一人ひとりの子どもを大切に、子ども中心の職員連携、地域との連携、関係機関との連携の3つの連携が必須になってくるので、地区の方々とのこうした機会を通じながら、地域に求められる施設作りを進めていきたい。福音寮では、一人ひとりの子どもを大切に、福音寮で良かったと思っただけの施設運営をしたいと考えているので、足りないところや、ここはどうなっているのか、ということも聞いていただきながら、一緒に地区の中で子どもたちを育てていっていただきたい。

(3)世田谷ボランティア協会から

高田 純子 様(烏山ボランティアビューロー)、久我 慶子 様(世田谷ボランティア協会)

烏山ボランティアビューローは、昨年4月に開設した。ボランティア活動を始めたい方とボランティアを必要とする方からの相談を受けてつなぐ役割のほか、既に活動している方の相談を受けたり、地域でボランティアを行っている方の活動支援を行っている。

ボランティアの種類は、多様であり、清掃活動や施設でのボランティア、そして近年は、子育て支援で学習支援の他、お祭りや施設でのイベント、地域活動のボランティアをお願いしたいという相談もある。

世田谷ボランティア協会の常設組織として、せたがや災害ボランティアセンターがあり、防災講座等を開催しているので、せたがや災害ボランティアセンターの烏山地域担当にぜひお声がけいただきたい。

(4)つなぐ・つながる「まちのお茶の間」

～今、できることをゆっくり紡いだ16年

小池 良実 様(岡さんのいえ TOMO)

<活動のきっかけ—岡さんのいえの歴史—>

世田谷トラストまちづくりの地域共生の家である。岡ちとせさんの親類であるオーナーが土地・建物・想いを引き受け、オープンした。これまでの活動として、蓄音機演奏会や

被災地の方の招待、理科の実験教室を実施してきた。また、毎月第一水曜日に、「まちの保健室カフェ」を実施している。日々、人と人との出会いによる化学変化のようなものがあり、ちょっとした困りごとや、まだ制度へとつなぐことはなくても、ここに来て、なんとなく発見もある、そういう機能を果たせていると思っている。できることをできる人がやりながら運営している。ぜひお越しいただきたい。

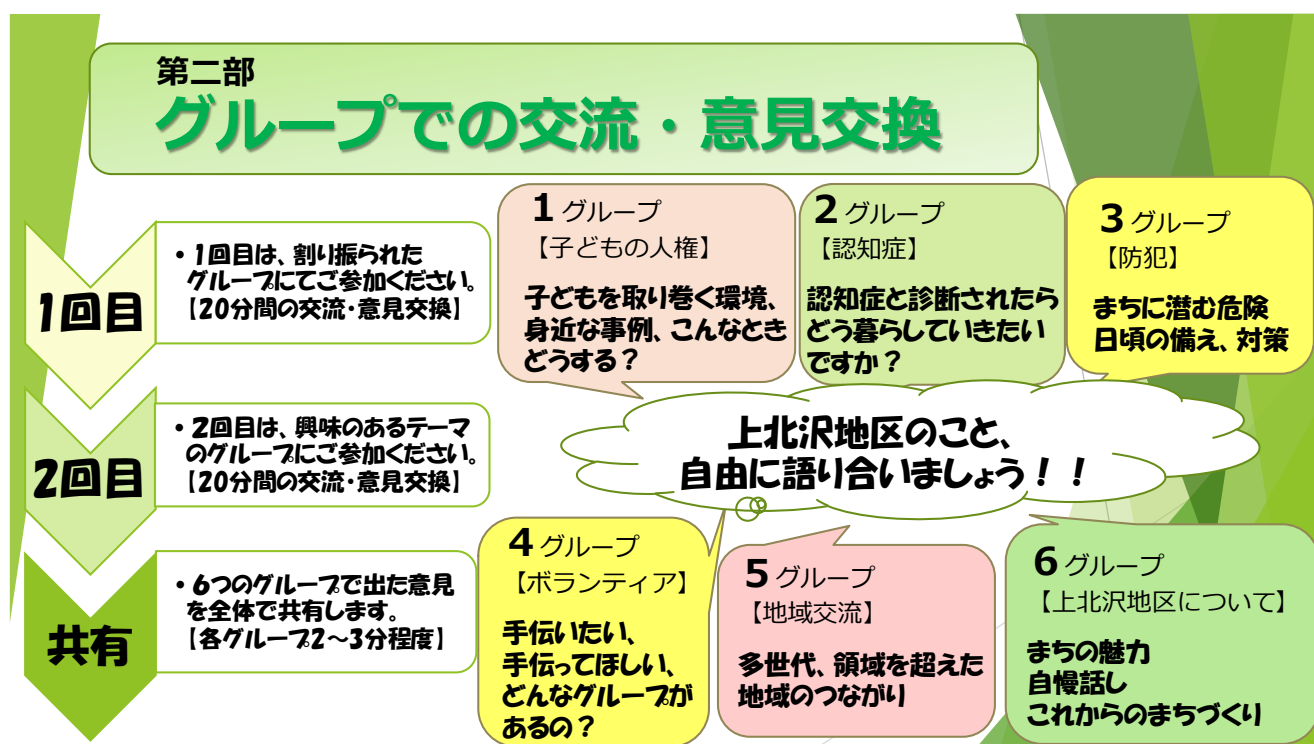
2. 第2部 交流・意見交換

「上北沢地区のこと、自由に語り合おう」

各グループ毎のテーマ

1 グループ	子どもの人権
2 グループ	認知症
3 グループ	防犯
4 グループ	ボランティア活動
5 グループ	地域交流
6 グループ	上北沢地区について

交流・意見交換の進め方



1 グループ テーマ：「子どもの人権」

1. メンバー

【1回目】

1	福音寮
2	コイノニアかみきた
3	まいふれいす@はなもも
4	上北沢小学校
5	上北沢地区民生・児童委員協議会
6	上北沢保育園
7	上北沢児童館
8	社会福祉協議会上北沢地区事務局
9	上北沢児童館

【2回目】

1	中部総合精神保健福祉センター
2	地区社協運営委員
3	えにつくす八幡山保育園
4	烏山地域障害者相談支援センター
5	岡さんのいえ TOMO
6	上北沢町会地区社協
7	希望丘青少年交流センター
8	上北沢児童館
9	社会福祉協議会上北沢地区事務局
10	上北沢児童館

2. テーマについての意見

- ・子どもたちともつながりを持ちたいが、保護者ともつながりを持っていきたい
- ・子どものしたい！が、できる環境づくりが大切
- ・感情を汲みとるのが難しい
- ・校則も、子どもたちの意見を反映したものにしていきたい
- ・子どもだけでなく、障害がある方も、言葉で表現するのが難しい
- ・子どもたちに伝えることは難しい
- ・全ての子どもの意見を集約するのは難しい
- ・言っても良いんだと思える環境を作っていくことが大事
- ・ダメなことはダメだと伝えることも大事

- ・対話を続けることが大事
- ・思春期・青年期の問題でお困りの方からの相談をお受けしている
- ・情報があふれていて、子どもたちにとっては生きづらさを感じることも多いと思う
- ・大事にされる存在なんだと伝えていくことが大事
- ・こどもの生きる力をはぐくむことが大事
- ・障害のある子と親からの相談をお受けしている
- ・最近、外で遊んでいる子どもの姿を見かけないが、どこで何をして遊んでいるのか？
- ・こちらから挨拶をしても、挨拶を返さない
- ・こちらがしっかりと話を聞いてあげると、話をしてくれる
- ・子どもたちにも考えさせることが大事
- ・不便さが考える力をつけることにつながる

2グループ テーマ：「認知症」

1.メンバー

【1回目】

1	上北沢区民センター
2	(都営) 上北沢1丁目第2アパート
3	(都営) 上北沢1丁目第2アパート
4	地区社協運営委員
5	大宅壮一文庫
6	グランダ八幡山
7	地区社協運営委員
8	あんしんすこやかセンター
9	あんしんすこやかセンター

【2回目】

1	上北沢小学校
2	上北沢ホーム・寿満ホームかみきたざわ
3	上北沢区民センター
4	グランダ八幡山
5	日赤奉仕団上北沢分団
6	(都営) 上北沢1丁目第2アパート
7	(都営) 上北沢1丁目第2アパート
8	あんしんすこやかセンター
9	あんしんすこやかセンター

2. テーマについての意見

- ・ 「もしも認知症と診断されたら、私はどうしたいか」
というテーマで意見交換をした。
- ・ 「認知症を遅らせる新薬を服用できるように一生懸命働きたい」
「家族に迷惑をかけないように、早めに施設に入りたい」
「自分らしくありたい」
「愛されるような、かわいい認知症になりたい」
といった御自身の希望とともに、各施設での認知症の方への取り組みや都営アパートの高齢者とできるだけ交流し、つながりづくりに尽力している取り組みなどを聞くことができた。
- ・ 遠方のご自身の両親の介護で悩んでいると発言された方に対して、グループメンバ

一から様々なアドバイスが送られるなど、和気あいあいとした雰囲気での談話することができた。

3 グループ テーマ：「防犯」

1. メンバー

【1回目】

1	世田谷ボランティア協会
2	烏山地域障害者相談支援センター
3	日赤奉仕団上北沢分団
4	グランダ芦花公園
5	成城警察署
6	あんしんすこやかセンター
7	烏山総合支所地域振興課計画・相談

【2回目】

1	ちいさなおうち保育園
2	上北沢幸友会
3	世田谷ボランティア協会
4	上北沢地区民生・児童委員協議会
5	明治大学
6	成城警察署
7	あんしんすこやかセンター
8	烏山総合支所地域振興課計画・相談

2. テーマについての意見

- ・オレオレ詐欺、還付金詐欺といった、警察を騙る詐欺が多い。警察を騙ってキャッシュカードを騙し取る手口。
- ・自分は絶対大丈夫と思って、電話（撃退、記録）の機能なども入れていない。
→確認はする習慣にする。
- ・110番をためらう場合、#9110にかけて相談してほしい。
- ・生活困窮世帯については、給付金詐欺の対応が必要。
- ・老人ホームでも携帯に直接詐欺の電話がかかってくるケースもある。
- ・未払いの料金があるとして無作為にかけている。
- ・コンビニでアマゾンカードの高額購入なども詐欺かもしれないので連絡をもらうようにしている。
- ・屋根が壊れているとあって訪問する詐欺のケースがある。

- ・高齢者には話す機会が少なく、電話で話し込んで信じてしまう傾向がある。
- ・詐欺のメールも多い。2段階認証などを設定する。
- ・成城署でオレオレ詐欺、還付金詐欺が多い。
- ・ATMへ誘導される。役所からお金が戻ると言われてそうすると、自分の口座から送金させられている。
- ・いくらアナウンスしても、ひっかかる人はひっかかっている。
- ・年金の日は、警察が特に警戒してくれている。
- ・給湯器の悪質なセールスなどもある。
- ・防犯カメラを設置したら実際に犯人が映っていたことがあった。
- ・民生委員もしている。同居の親が貴金属がなくなったと言っているというケースがある。110番して良いのか迷う。
→#9110にかけてもらいたい。迷うような些細なことでも受けている。
- ・学生が被害にあったという話はきかない。
- ・個人的に自分のメールにおかしなメールがきていたが、色んな年代の人が被害にあると思う。
- ・個人メールは様々な詐欺メールが来ている。
- ・振り込み詐欺は、まず電話にでないことが大事。
- ・用事のある人は、1度以上かけてくるので、1回目は出ないように。
- ・町会の会報にも載せている。振り込み詐欺防止の器具をつけるだけで、半分くらいの被害は防げる。
- ・民生委員として自宅の電話番号を公表している。
- ・犯罪グループがつかまっても、グループはいくつもあるので減らない。

4 グループ テーマ：「ボランティア」

1. メンバー

【1回目】

1	地区サポーター
2	大宅壮一文庫
3	上北沢幸友会
4	どんぐり食堂八幡山
5	明治大学
6	社会福祉事業団
7	社会福祉協議会上北沢地区事務局
8	社会福祉協議会上北沢地区事務局

【2回目】

1	世田谷ボランティア協会
2	子育てコーディネーター
3	上北沢保育園
4	大宅壮一文庫
5	どんぐり食堂八幡山
6	あんしんすこやかセンター
7	烏山地域社会福祉協議会事務所
8	社会福祉協議会上北沢地区事務局

2. テーマについての意見

- ・高齢者クラブは、60歳以上の団体だが、70歳以上の方が多く所属している。クラブ活動として、麻雀や歩こう会、民謡、踊りなど。悩みとしては、後継者が見つからないこと。1番年下の方でも78歳。100名位の会員がいる。上北沢1丁目～5丁目範囲。毎月第3木曜日に新聞やダンボール等の古紙を集めたり、上北沢3丁目と5丁目の公園を有償ボランティアとして掃除をしている。
- ・八幡山2丁目にある明治大学のグラウンドでは、ラグビーやサッカーの他、競争部が活動中。昨年10月に小学生を対象としたアーチェリー教室を開催。
- ・八幡山に30年以上住んでいる。まいぷれいす@はなももで調理のボランティアをしている。地区サポーターとして単発の活動を希望しているが、単発だと依頼が少ない。
- ・八幡山で子ども食堂を開催。利用者が急増し、92食作っていたこともあった。現在は、困窮している家庭以外をお断りしたため、50食のお弁当と会食用30食を9名

のスタッフで作っている。昨日の活動時もひとり親家庭から相談があり、対応した。スタッフの高齢化が課題。

以前は明治大学の学生がお弁当を取りに来れない方の自宅へ届けてくれるボランティアをしていた。現在は、就職が決まったため活動いただけていない。学生等いたら、ボランティアに協力してもらいたい。

- ボランティアに興味があったため、参加した。自身が退職した後は、子ども食堂のボランティアがしたい。
- 昭和の雑誌や本の図書館を八幡山で開館している。昔の本や雑誌は認知症予防の回想法として取り入れられており、今回、社協やあんしんすこやかセンターと共催で事業を行う予定。高齢者を対象とした書庫のツアーや自分史を作るなどの事業を行っていきたいが、集客力が弱いため、いろんな団体と連携して進めたい。
- 様々な団体がボランティア募集を行っており、ボランティアの取り合いになっている。以前、社協で行った地区活動入門講座に参加し、ボランティア協会のPRをさせてもらった。そのように様々な団体がネットワークを通して協力し合えると良い。
- おでかけ広場を拠点として活動している。「ボランティア」になるかわからないが、孤立しているママやパパを地域の方が見守り、繋げてくれることが大切。おやじの会が子どものことだけでなく、もっと地域で活躍してくれると嬉しい。子育て世帯が人に頼める練習も必要。
- 学校に通えない小学生や中学生が保育園にボランティアに来てくれると、その子たちの居場所にもなる。地域のイベントを保育園でやってもらえると自然と多世代交流もできるのでありがたい。
- 地域のイベントに来てくれる高齢者は良いが、出て来られない方が心配。特に男性は仕事をリタイアした後、地域で孤立しがち。社協と共催で行う「お茶べり会」を外に出るきっかけにしてもらいたい。
- シニアの活用をもっとできると良い。60代男性など、これまで地域と関わりがなかった人は、やりたい思いはあるが、きっかけがないので出てこられない。申し込み不要でふらっと行けるハードルの低いところから等。おやじの会が継続して地域の活動を行ってもらえると良い。

5 グループ テーマ：「地域交流」

1. メンバー

【1回目】

1	えにつくす八幡山保育園
2	岡さんのいえ TOMO
3	中部総合精神保健福祉センター
4	小さなうち保育園
5	地域子育て支援コーディネーター
6	まちづくりセンター
7	あんしんすこやかセンター

【2回目】

1	地区サポーター
2	グランダ芦花公園
3	そよかぜ訪問看護ステーション上北沢
4	コイノニアかみきた
5	地区サポーター
6	明治大学
7	福音寮
8	まちづくりセンター
9	あんしんすこやかセンター

2. テーマについての意見

- ・えにつくす（2歳児まで保育園）で開業し5年目となる。園長が地域交流を大切にしている。
- ・母親の小さな悩みを聞き、相談につなげている。交流の場に出て行って活動している。
- ・精神保健領域の相談センター、松沢病院と別の組織。八幡山駅にこころの健康だよりを配布している。
- ・コロナ落ち着き保育園間の交流も再開した。地域交流は地域に出ていくことが大切。
- ・（岡さんのいえに）飛び込みで親子が参加した。デイサービスまでは必要ないが他者との交流が必要と遠方に住まいの娘が帰省時にお母さんをお連れした。ご本人、娘もすぐになじみ。娘は駄菓子屋の販売も率先してやってくれた。それぞれが、その場で役割をみつけて動いてくれる。
- ・地域の並木道の掃除で地域の方と顔見知りになる。
- ・地区サポーター以外にも町会、調理ボランティアなど複数のボランティア活動をして

いる。

- ・地区に学生寮がある。学生、教員の専門性を活かした活動が地域でできると考えている。
- ・担当の高齢者がウォーキングに関心ある地域で参加できるイベントや場があれば知りたい。
- ・元体育教員でスポーツ推進員、スポーツレクレーション指導員のため運動を通じた地域交流をしている。月2回、芦花公園でノルディックウォークの指導をしている。ボッチャの指導も行っている。地域交流、貢献したい人を受けたい人をつなぐ窓口が少ない。
- ・地域の方も参加できるカフェ、理学療法士の運動を公開している。
- ・パン屋をしている。パン屋の販売を通して障害への偏見の改善を図っている。小学校との交流、文化祭を実施しパン作りの体験を行った。好評だった。

要約

- ①多様な年代、分野の交流や交流の場で役割を見つけることが大切。
- ②地域交流は待っているのではなく地域に出ていることが良い。
- ③特技や専門性を活かした地域交流を考えている方が多い。
- ④ボッチャなど体を動かした交流も好評でニーズがある。

6 グループ テーマ：「上北沢地区について」

1. メンバー

【1回目】

1	上北沢町会・地区社協
2	地区サポーター
3	世田谷ボランティア協会
4	そよかぜ訪問看護ステーション上北沢
5	上北沢ホーム・寿満ホームかみきたざわ
6	明治大学
7	まちづくりセンター
8	まちづくりセンター

【2回目】

1	世田谷区社会福祉事業団
2	まいふれいす@はなもも
3	大宅壮一文庫
4	上北沢地区民生・児童委員協議会
5	まちづくりセンター
6	まちづくりセンター

2. テーマについての意見

- ・ 4月には桜まつりがある。桜並木がきれい。
- ・ 施設が多くある。
- ・ 八幡山は商店街がにぎやかで、若い人でも行きやすい。
- ・ 松沢病院のおかげで緑が多い。また、目印になる。
- ・ 高架になったらどうなるか楽しみ。
- ・ 赤堤通りの街灯に明治大学のフラッグがある。
- ・ 道路の勾配がなだらかで、年を取っても歩きやすい。
- ・ 上北沢の桜並木は静かな住宅街で、八幡山は近代的な家もあり、また畑もあり、いろいろな景色を見ることができる。
- ・ 明治大学の学生とのかかわり→コロナ前はラグビー部員と地域の方との交流があった。
どうやってまちをPRするか
- ・ 大きなマンションが建設されており、新しい人たちにもまちの行事に参加してほしい。
- ・ 高齢者が多く、高齢者施設も多い。

- ・大宅壮一文庫について：この地域にお住まいの方はあまり来ない。

有料の施設で入りにくい印象があるのが課題。

地域との交流がなかなかない。

- ・松沢病院に入られている方などと実際に触れ合ってみると優しい方が多いと感じる。
- ・昔はこの地域は松沢病院というイメージだったが、今は新しい住宅が増えて、イメージが変わってきた。
- ・高校生への求人（アルバイト）が少ない。

→大手の企業はもちろんあるが、地域の個人経営のお店や畑仕事などの求人がなかなか見つけられない。もし情報があれば、支援したい。

- ・桜の季節の移ろいを感じられる。
- ・朝、犬の散歩で將軍池広場に行くが、ラジオ体操をやっている。
- ・松沢病院の周りを朝の6時半くらいに明大や日大の学生が走っている。だから高齢者のイメージだけでなく、若い人（学生）が結構いるイメージがある。
- ・若い人と高齢者の触れ合うイベントがあるといい。

講評 世田谷区烏山総合支所長 和田 康子

皆さま、本日は大変おつかれさまでした。上北沢地区にお住まい、あるいは活動しているという共通項で今日は色々な方が、このひとつの場所にお集まりになって、色々なお話を聞いたり、お話をしたりということができたのではないかと思います。その中で、新しい情報を得たり、新しい気づきがあったりしたのではないかと思います。ぜひ、今日の気づき、新しく知った情報を今後の活動の場でもどんどん活かしていただけたらと思います。

今日のテーマで、「まちがつながる、人をつなぐ」という言葉がありますが、冒頭でも話がありましたように、烏山地域の地域経営方針のキャッチフレーズにしているのがこの言葉です。今日はまさに人がつながる現場を見せていただいたような気がいたします。どうぞ今日の機会を今後に活かしていただきたいと思います。大変、おつかれさまでした。

閉会挨拶 上北沢地区あんしんすこやかセンター 所長 笠原 康右

皆さま、本日はお集まりいただき、ありがとうございます。皆様が集まって、グループごとに活発な意見交換がされているのを拝見しました。もしかしたら、まだまだ話し足りない。もっともっと話したいと思われている方がいらっしゃるのではないのでしょうか。

住み慣れたこの上北沢地区で、生き生きと暮らし続けることができる、街も人もつながる、そういう街づくりについて、本日貴重なご意見・ご報告いただきましたこと、今後の地区の財産になっていくことと存じます。

私ども四者連携は、これからも皆様とともに、地域共生の街づくりをさらに発展させていきたいと考えておりますので、ご協力いただければ幸いです。

本日は、誠にありがとうございます。